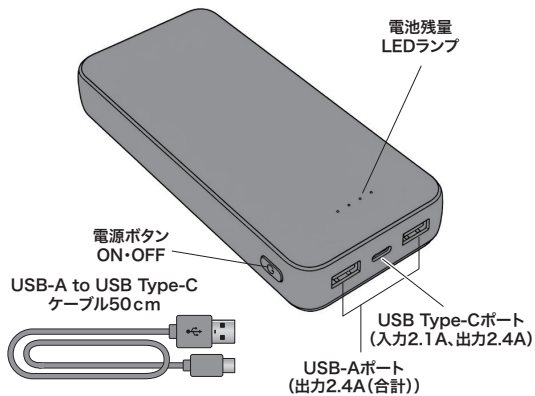


FT-MB009V2BK

取扱説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。その後大切に保管し、必要なときにお読みください。

各部の名前



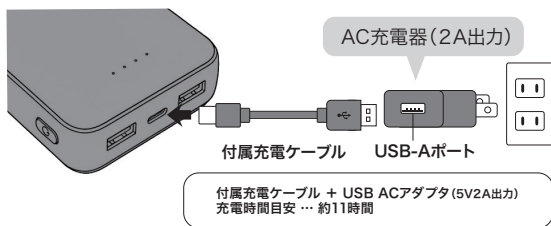
製品仕様

出力ポート	USB-A×2、USB Type-C
入力ポート	USB Type-C
内蔵電池	リチウムイオンポリマー電池 3.7V 20,000mAh
定格出力	USB-A:5V/2.4A(合計) USB Type-C:5V/2.4A USB-A+USB Type-C:5V/2.4A(合計)
定格入力	USB Type-C:5V/2.1A
製品サイズ	(約)奥行29×幅68×高さ150(mm)
質量	(約)405g
付属品	USB-A to USB Type-Cケーブル50cm 取扱説明書

製品の特長

- ファン付ウェアなどの季節ウェアに対応。※適応規格に限る。
- 充電残量分かるインジケータ付き。
- PSE(電気用品安全法)適合品です。

モバイルバッテリーを充電するには



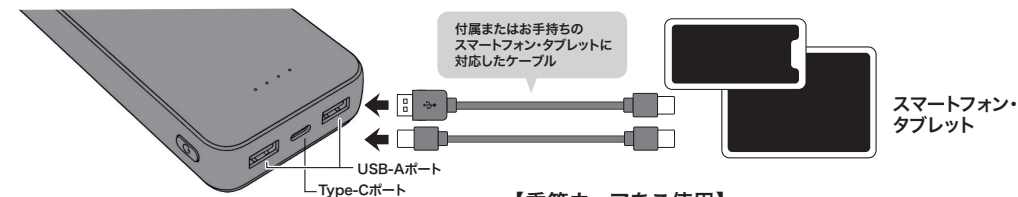
- 1 付属の充電ケーブルを本製品のType-Cポートに接続します。
- 2 別売のUSB-Aポート対応AC充電器に接続し、家庭用コンセントに挿し込むと充電が開始されます。
- 3 電池残量を表すLEDランプが、全点灯になると満充電状態です。充電が終わりましたら速やかに充電ケーブルを外してください。

※充電中は本製品のLEDランプが残量に応じて点滅します。※USB-Aポート対応AC充電器の出力は2A以上のものを推奨します。PCではまれに充電できない場合や、充電に時間がかかる場合があります。

電池残量 (LEDランプ)	
LED点灯	バッテリー残量
●●●●	約75%以上
●●●●	約75%以下
●●●●	約50%以下
●●●●	約25%以下

- 充電した状態で外出はしないでください。
- 充電は、なるべく製品の様子を確認できる時間と安全な場所で行い、充電が完了したらプラグを抜いてください。

モバイルバッテリーの使い方



【スマートフォン・タブレットへの充電】

- 1 本製品のUSB-Aポート、Type-Cポートのいずれかに付属の充電ケーブルまたはお手持ちのスマートフォン・タブレットに対応した充電ケーブルを接続します。
- 2 もう片方のケーブルをスマートフォンまたはタブレットに接続します。充電ケーブルを本製品に接続すると自動的に充電が開始されます。※自動で充電が開始されない場合は電源ボタンを1回押してください。
- 3 充電が完了しましたら、速やかに充電ケーブルを外してください。
- 4 本製品の電源ボタンを約3秒長押しすると、電源OFFになります。

【季節ウェアをご使用】

- 季節ウェアケーブルをバッテリーに挿し込む際には必ず向きを確認してください。
- 1 本製品のUSB-Aポートに季節ウェアのケーブルを接続します。※自動でバッテリーの電源がONにならない場合は電源ボタンを1回押してください。
 - 2 手で季節ウェアの電源をONにしてください。
 - 3 使い終わりましたら、季節ウェアとバッテリーの電源をOFFにしてください。※使用してない場合でも季節ウェアケーブルとバッテリーが接続状態の場合には待機電力が消費されますので、使用時以外は必ず外してください。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

- △ 危険** この表示は、取扱いを誤った場合、「死亡または、重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
- △ 警告** この表示は、取扱いを誤った場合、「死亡または、重傷を負う可能性が想定される」内容です。
- △ 注意** この表示は、取扱いを誤った場合、「損害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

注意を促す記号	行為を禁止する記号
△ 感電 △ 火災	⊘ 禁止 ⊘ 分解禁止 ⊘ 水ぬれ禁止 ⊘ 接触禁止 ⊘ ぬれ手禁止 ⊘ 指示

安全のために 本製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

故障したら使わない 動作がおかしくなったり、本製品が破損していることに気づいたら、速にお買い上げ販売店またはお客様相談窓口にご連絡ください。例) 変な音、においがする、煙が出る。

- 万一、異常が起きたら**
- 1 本製品から接続機器を外して電源をOFFにする。
 - 2 お買い上げ販売店またはお客様相談窓口に連絡する。

△ 危険 △ 感電 △ 火災

- ⊘ 分解や改造をしない
- ⊘ 火の中に入れて、電子レンジやオープンなどで加熱しない
- ⊘ ポケットの中やからに当たった状態で機器へ充電しない 発熱し火傷の原因になります。

△ 警告 △ 感電 △ 火災

- ⊘ 水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらしたり、ぬれたまま充電したり、使用しない
- ⊘ ぬれた手で本製品をさわらない 感電の原因になります。
- ⊘ プラグやコネクタ部に金属類を接続しない 発熱や発火の原因になります。
- ⊘ お子さまが使用の際には保護者が使い方を十分に教える 感電やけがの原因になります。
- ⊘ 機器の定格を超える使い方をしない 発火の原因になります。
- ⊘ トラベル用コンバーターなどの変圧器を使って本製品への充電はしない 発熱や発火、感電の原因になります。
- ⊘ ACプラグやUSBコネクタは奥までしっかり挿入する 挿入が不完全な場合、発火、感電の原因になります。

△ 注意

- ⊘ USBコネクタを抜く際にコード部を引っ張らない 発火や感電の原因になります。
- ⊘ 0℃～40℃以外の場所では使用しない 電池が液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- ⊘ 直射日光の当たる場所や高温の場所に放置しない 発熱、発火、破裂の原因になります。
- ⊘ 自動車のシガーライターを使って充電しない 発熱、発火、感電の原因になります。
- ⊘ 湿気やほこりの少ない場所で使用・保管する 発熱、発火、感電の原因になります。
- ⊘ 物を載せたり、落下しやすいところに置かない 発熱、発火、感電、けがの原因になります。
- ⊘ 充電ケーブルのコードやコネクタが傷んだり挿入がゆるいときは使用しない 発火、感電の原因になります。

使用上のご注意

- 本製品を使用する前に、必ず接続機器の定格電圧、定格電流をご確認のうえご使用ください。
- 本製品をご使用にならないときは、充電ケーブルを外して保管してください。接続したままだとバッテリーの残量が減ってしまったり、コネクタ部の破損の原因となる恐れがあります。
- 接続機器の電池残量が0の状態から充電する場合には、15分～30分程度充電してから電源を入れてください。
- 機器にご使用のケーブルが指定されている場合、そのケーブルをお使いください。
- コードを無理に曲がった状態で使用しつづけるなど、コードに負荷がかかるべくからないうちで使用してください。
- ホットカーペットの上やストーブの前面、直射日光の当たるところ、炎天下の車内など、高温になる場所で充電しないでください。また毛布などを被せた状態で充電しないでください。
- ラジオやテレビなどに雑音が入る場合は、充電器を1m以上離してください。
- 満充電状態、または電池残量のない状態での保管はお避けください。電池の性能や寿命の低下の原因になります。
- 充電ケーブルを抜く際は、コネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜いてください。コードを持って引き抜くと、コードの断線やコネクタの破損の原因になります。
- 充電中は熱を帯びることがありますが、通常の仕様です。

故障かな？と思ったら

以下の項目に従って調べていただき、改善されない場合はお買い上げの販売店、お客様相談窓口にご相談ください。

本製品への充電が開始されない

- 充電ケーブルがUSBポートにしっかり挿入されているかどうか。
- 充電ケーブルのコネクタが汚れている、または変形しているなどの接触不良となっていないかどうか。
- 本製品の定格入力にあった充電ケーブルを使用しているかどうか。

本製品への充電時間が長い

- 0℃～40℃の温度よりも、充電する場所の温度が高い、または低い場所で充電していないかどうか。
- 本製品の定格入力にあった充電ケーブルを使用しているかどうか。

使用中、本製品が温かくなる

- 使用中はあたたくくなります。異常ではありませんので、しばらくおいて冷めてからご使用ください。

本製品からスマートフォンなど機器への充電が開始されない

- 機器の定格入力に合った充電ケーブルをご使用しているかどうか。
- 本製品の電池残量が十分にあるかどうか。
- 本製品の電源がONになっているかどうか。

本製品の使用時間が短い

- 本製品は何度も繰り返し充電し使用可能ですが、使用回数が多くなるとバッテリーが寿命となります。本製品を満充電しても、スマートフォンなど機器への充電時間が短くなった場合は寿命の場合もございます。

季節ウェアの電源が入らない

- 本製品の電源がONになっているウェアの電源ON動作を再度行ってください。
- 本製品の電源がOFFになっているウェアの電源をONにしてください。

廃棄のしかた

本製品にはリチウムイオン電池が内蔵されています。廃棄の際は、お住まいの地方自治体の条例に従って処分してください。条例の詳細内容は、各地方自治体にお問い合わせください。廃棄の際、充電残量がある場合は電源が入らなくなるまで使用し、電池を使い切ってください。

